



# 2018

# 国語

## 注 意

1. 試験時間は、8:50～9:40の**50分**です。
2. 問題は ㊦ から ㊧ まであります。
3. 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
4. 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
5. 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
6. 問題についての質問はうけつけません。
7. 試験が終わったら、解答用紙を裏返しにしておきなさい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

戦後、昭和の北海道。札幌さっぽろに近いある集落はアイヌの人びとが多く住むコタンと呼ばれる地域ちいきである。ここに暮らすマサは、アイヌ人を父、和人わじん（日本人）を母にもち、集落から中学校に通っている。ある日、マサのクラスメイトである後藤ハツごとうのさいふがなくなるという事件が起こった。放課後、学級全体で話し合いが始まったが、週番（一週間交代の学級当番）の鈴木義夫すずきよしおが、それでは気まずいことも起きると少人数で話し合うことを提案した。「賛成」の声が上がり、学級の全生徒が賛同するかと思われた矢先、後藤が「不賛成です」とさげんだ。

「聞いてもいいですか。」

後藤ハツが立ちあがって、

「畑中さん。」

a かん高くマサを呼びました。マサは、

「はい。」

ハツをまともに見て、しずかに立ちました。

「あなた、わたしのさいふ、知らない？」

「知りません。」

マサは、① きつぱりと返事ができました。

（なぜ、わたしを名ざして、こんなことを聞くのだろう。わたしが、ぬすんだといわんばかりではないか。こんなはずかしいことを、みんなの前で——。和人たちばかりの教室ではないか。）

マサは、肋骨ろっこつがキリキリと音をたて、二つの乳の底がいたみだしてきました。

（なんの証拠しやうこがあつて、② こんなおそろしいことを——）

マサは、いたみをこらえて、

「ひよっとしたら、思いちがいをしているのではないでしょうか。」  
と、<sup>③</sup> おだやかにこたえました。

「思いちがい？」

「たしか後藤さんは、土曜には、あさ緑のセーターを着ていたと思います。あちらのポケットにでも入れたままにして？ きょうは、服をとりかえてきたから——」

「そんなこと、ないわ。」

「でも——」

さち子が、口をはさんで、

「後藤さん、よく思いかえしたら、いいわ。」

「さち子さん、あなたと話してないことよ。」

「だれが話したっていい会じゃないの。後藤さんだけの発言だなんておかしいわ。だいいち、あなた、失礼よ。」

「なにが？」

「なにがって、わからないの？」

「わからないわ。」

「つつしまねばならないこんな——紛失問題かんじつですもの、もつといいようがあるわよ。」

「はつきりいつて。なにが失礼？」

「いきなり、マサちゃんを呼ぶなんて、<sup>④</sup>——いったい、どんな理由で——」

さち子の声が大きくなると、マサがいました。

「さち子さん、もう、いいわ。わたし、このことについて、なんにも知らないんだから、なんとも思っていないわ。おちついているのよ。」

鈴木が、なかにはいつて、

「後藤さん、念のため、家に電話をかけて、土曜日に着ていたセーターをしらべてもらったら——」  
なだめるようにいつて、

「そうだ、さっさとしらべてもらえよ。」

「こんなに、おそくなっちゃって。」

「おい、後藤、ぐずぐずしないで、早く電話をかけるよ。」

がやがや、みんながいいはじめました。

ハツは、いやいやながら、教室をでていきました。ドン先生は、教室の外側のガラス窓をガラガラッとひらきました。目の前に茂しげっているニレの老樹の枝が、若芽をぶつぶつふくらませていました。こずえにひっかかるように夕焼け雲のささ注1べりが、だいたい色になり、黄金にかがやいて、<sup>⑤</sup> あしたの晴天をだまって知らせていました。

(もし、あさ緑のセーターにさいふがなかったら、どういうことになるだろう。おとしたことになるのか、それとも、どこまでもぬすまれたといはるのか。そうすれば、いつまでも、わたしに嫌疑けんぎがかかる。)

マサは、<sup>⑥</sup> つめたくて重くなってきたおさげを、きりきりとてのひらでしぼりました。ろうかを走ってくるハツの足音がして、

「あったわ。」

<sup>⑦</sup> 凍結とうけつしていた頭のなかの氷が、いっぺんととけだして、関節がゆるみ、乳ぶさがぺちゃんこになりました。

『コタンの口笛』石森延男の文章による

(注1) ささべり…さき 笹のへり(はし)。笹の葉の緑に色が変わったところがあることから、ここでは色が変わった雲のはしの部分のこと。

問一 波線部 a・b の語句の意味として適当なものを次の中から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

- |        |                            |   |        |       |
|--------|----------------------------|---|--------|-------|
| a かん高い |                            |   | b なだめる |       |
| ア      | 声の調子が高い                    | } | ア      | たしかめる |
| イ      | 声の響 <small>ひび</small> きが良い |   | イ      | たしなめる |
| ウ      | 声の質 <small>しつ</small> が良い  |   | ウ      | しずめる  |
| エ      | 音量が大きい                     |   | エ      | すすめる  |
| オ      | 声色 <small>すゑど</small> が鋭い  |   | オ      | きめる   |

問二 傍線部①「きつぱりと返事ができました」とありますが、マサがそのようにできた理由としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 自分にさいふをぬすんでいないことを言い聞かせたかったから。
- イ 自分がこの紛失事件に関わっていないことに自信があつたから。
- ウ 自分に嫌疑がかかっている状況からいち早く脱だつしたかったから。
- エ 自分が相手よりも劣おとった人間ではないという自負があつたから。
- オ 自分をはじめに疑う相手にたいして怒いかりがこみ上げてきたから。

問三 傍線部②「こんなおそろしいこと」とは何のことを指しているのか、四十字以内で説明しなさい。

問四 傍線部③「おだやかにこたえました」とありますが、このときのマサの状況を説明したのもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 感情の高ぶっている相手を冷笑している。
- イ 見当違いをしている相手を見下している。
- ウ 冷静に相手の次の出方をうかがっている。
- エ わき上がる感情を意識的におさえている。
- オ 理不りふ尽じんな仕打ちを受け感情を失っている。

問五 傍線部④「———」とありますが、この部分における「———」の効果の説明したものとしてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 理由がどういったものであるのか考えながら話している様子を示している。
- イ 理由がどういったものであるのかわからず戸惑<sup>とまじ</sup>っている様子を示している。
- ウ 理由に見当こそつかないが、深刻な問題に感じている様子を示している。
- エ 理由に見当がつくものの表現の仕方がわからないでいる様子を示している。
- オ 理由に見当がつくものの口にするのをためらっている様子を示している。

問六 傍線部⑤「あしたの晴天をだまっけて知らせていました」とありますが、ここに用いられている表現技法を、○○法という形で答えなさい。

問七 傍線部⑥「つめたくて重くなってきたおさげを、きりきりとてのひらでしぼりました」とありますが、この表現を説明したものとしてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 読点を区切りとして、前の部分は冷静になってゆく気持ちをあらわしており、後の部分は憎<sup>にく</sup>しみを隠<sup>かく</sup>せないさまをあらわしている。
- イ 読点を区切りとして、前の部分は冷静になってゆく気持ちをあらわしており、後の部分は奮<sup>はげ</sup>い立とうとするさまをあらわしている。
- ウ 読点を区切りとして、前の部分は冷静になってゆく気持ちをあらわしており、後の部分はこらえようとするさまをあらわしている。
- エ 読点を区切りとして、前の部分は重くしずんでゆく気持ちをあらわしており、後の部分は憎<sup>にく</sup>しみを隠<sup>かく</sup>せないさまをあらわしている。
- オ 読点を区切りとして、前の部分は重くしずんでゆく気持ちをあらわしており、後の部分は奮<sup>はげ</sup>い立とうとするさまをあらわしている。
- カ 読点を区切りとして、前の部分は重くしずんでゆく気持ちをあらわしており、後の部分はこらえようとするさまをあらわしている。

問八 傍線部⑦「凍結していた頭のなかの氷が、いっぺんにとけだして、関節がゆるみ」とありますが、これはどういうことですか。このときのマサの心境の変化に着目して、六十字以内で説明しなさい。

問九 全体の内容から読み取れることとしてふさわしいものを、次の中から二つ選んで、記号で答えなさい。

- ア マサは、自分がアイヌの血を引いていることに負い目を感じており、和人たちのまえでは自分らしくふるまえないと思っている。
- イ ハツは、他人の気持ちの変化に無頓着むとんちゃくなところはあるが、他人の意見を素直に聞くことができ、それを実行に移すことができる。
- ウ さち子は、自分が正しいと思うことであれば、たとえ他人とぶつかることになったとしても、率直そつちよくに意見を述べることができる。
- エ 鈴木は、物事のなりゆきを注意深く考え、慎重しんちように判断することができ、また問題が生じたとしても冷静に対処することができる。
- オ 先生は、この事件の解決に向けて積極的には関わらないものの、話し合いを注意深く見守り、ときおり適切な助言を与えている。
- カ 学級は、何か問題が起きて学級全体で話し合いをすることになったとき、まずは当事者間で話し合っ解決することになっている。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① 昆虫は植物から蜜や花粉をもらい、代わりに植物は昆虫に花粉を運んでもらう。この相思相愛の共生関係の進化の過程で、最初に花粉を運んだ昆虫は、コガネムシの仲間であったと考えられている。言わば、植物にとっては初恋の相手である。

② しかし、① 初恋というものが、どこか不器用でスマートさに欠けるのは、植物の進化でも同じである。現代でも、コガネムシはけっして器用な昆虫ではない。墜落したかと思うほど、ドスンと花に着陸し、餌の花粉を食べあさって花の中を動き回る。植物と昆虫の共生関係は、最初はこんなスタートだったのである。

③ こうして植物の花が発達するに連れて、花から花へと華麗に飛び回るチョウやハチなどの昆虫が進化を遂げて行ったのである。

④ チョウやハチと言えば、人間にとってはチョウの方が人気があるかも知れないが、② 植物にとつてチョウはけっして良い存在ではない。チョウは長い足で花に止まり、ストローのような長い口で蜜を吸う。そのため、チョウの体には花粉がつきにくいのである。植物にとつてチョウは、花粉を運ぶことなく、蜜だけ吸っていく蜜泥棒なのである。

⑤ A、③ ハチは植物にとつて最良のパートナーである。何しろハチは働き者である。ミツバチのような社会性の昆虫は、家族を養わなければならないから、とにかく忙しそうに花から花へと飛び回る。それだけ、花の花粉も運ばれるということなのだ。

⑥ B ハチの仲間は頭が良い。そのため、花の色や形を認識して、同じ種類の花を飛び回る。これは、植物にとつては、極めて都合が良い。何しろ、花から花へと飛び回ると言っても、違う種類の花に飛んで行ってしまつては受粉をすることができない。その点、ハチは同じ種類の花へ飛んで行ってくれるから、効率が良いのである。

⑦ C、植物の花は、ハチを呼び寄せようと必死だ。そして、ますます花を美しく装飾し、たっぷりの蜜を用意して、ハチを誘っているのである。

⑧ D、問題もある。ハチのために奮発して用意した蜜を狙って、さまざまな昆虫が花にやってきてしまうのである。④ どうすれば、他の昆虫を拒み、ハチだけに蜜を与えることができるのだろうか。

⑨ もし、あなたが植物の花だったら、どのような工夫をするだろうか？

⑩ 高校や大学は、受験生を集めるために、あの手この手で魅力を発信する。しかし、そう言いながらも、すべての受験生が入学できるわけではない。高校や大学が望む生徒を選ぶためにテストを行うのだ。

11 植物も同じである。

12 植物は、ハチを選ぶためにテストをすることを考えた。先述のように、ハチは頭が良い。そこで、植物は花の奥深くに蜜を隠し、花の形を複雑にして簡単には蜜にたどりつけないようにしたのである。そして、花びらに蜜標と呼ばれる蜜のありかを示す目印となる模様をつけた。この蜜標の謎を解き、複雑な花の形を理解する頭の良い昆虫だけが、蜜にたどりつくことができるようにしたのである。

13 そして、ハチは狭い花の中に潜り込み、後ずさりして花から出てくることができる。じつは、後ずさりして花から出てくるという動きが、他の昆虫にはなかなかできないのだ。

14 ハチが後ずさりが得意だから、花が狭い形に進化をしたのか、あるいは花が狭い形に進化をしたから、ハチが後ずさりするように進化を遂げたのかは、わからない。おそらくは花がハチにだけ蜜を与えようとし、ハチがその花から蜜を吸おうと、お互いに進化を遂げていく中で、花の蜜を吸うハチと、ハチだけに蜜を与える花が発達したのだろう。

15 しかし、結果として花はハチだけが潜り込みやすいような形になり、ハチは花に潜り込みやすいような形になっている。

16 すると、ハチが同じ花だけを選んで花粉を運んでくれる理由も見えてくる。

17 ハチも慈善事業ではないから、植物のためにわざわざ同じ花を選んで回るようなことはしない。しかし、ハチは謎を解き、複雑な形に侵入して苦労して蜜にたどりつくのと、同じ仕組みで蜜を得られる花に行きたくなる。植物のテストをクリアしたハチにとって、同じ種類の花は、<sup>⑥</sup>過去問とまったく同じ問題を出題する入学試験のようなものなのだ。だから、ハチは他の花には見向きもせず、同じ種類の花へと飛んでいくのである。

18 花とハチとの関係は、「共生関係」と言われるが、自然界の生き物は助け合うようなことはしない。花もハチも利己的に、自分の都合の良いように振る舞っているだけである。しかし、そんな自分勝手な生き物たちが、お互いに損することなく、お互いに得するようなくみを作り上げている。それが、人間の目には助け合っているように見えるのだ。

19 <sup>⑦</sup>自然の営みというのは、本当にすごいものである。

『植物はなぜ動かないのか』稲垣栄洋の文章による

(注1) 先述：前に述べたこと。

(注2) 慈善事業：収入ではなく、人々の救済を目的とした社会事業。

(注3) 利己的：自分の利益だけを追求しようとするさま。

問一 空欄A～Dに入れる語句として適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア しかし                    イ つまり                    ウ たとえば                    エ 一方                    オ しかも                    カ そのため

問二 傍線部①「初恋というものが、どこか不器用でスマートさに欠けるのは、植物の進化でも同じである」とありますが、どういうことですか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 初恋は格好悪い相手と結ばれがちだが、植物の受粉の過程も初めは見た目の不格好な昆虫が選ばれることが多かったということ。  
イ 初恋は思いが空回りがちだが、植物の受粉の過程も初めは虫の花への思い入れが強く上手くいくことが少なかったということ。  
ウ 初恋は年月が経つにつれて美化されがちだが、初めは無駄が多かった植物の受粉の過程も時と共に美化されてしまうということ。  
エ 初恋は多くの場合実らずに終わってしまいがちだが、植物の受粉の過程も初めは相思相愛の関係には至らなかったということ。  
オ 初恋は経験不足から振る舞いがぎこちなくなりがちだが、植物の受粉の過程も初めは効率が悪いものから始まったということ。

問三 傍線部②「植物にとってチョウはけっして良い存在ではない」のはなぜですか。「チョウ」の体の構造に注目して、三十字以内で説明しなさい。

問四 傍線部③「ハチは植物にとって最良のパートナーである」とありますが、そう言えるのはなぜですか。その理由として適当なものを次の中から二つ選んで、記号で答えなさい。

ア 毒を持っているため、花の天敵であるチョウを追い払うから。  
イ 花の種類を見分けるため、同じ種類の花に花粉を運ぶから。  
ウ 家族を養うために忙しく働くため、あまり花の蜜を吸わないから。  
エ 花から花へ次々と飛び回るため、多くの花粉を花に届けるから。  
オ 植物との相性がよいため、最高の相棒だと言うことができるから。  
カ 非常に賢いため、花が受粉しやすい箇所かしよに花粉を付着させるから。

問五 傍線部④「どうすれば、他の昆虫を拒み、ハチだけに蜜を与えることができるのだろうか」とありますが、「他の昆虫を拒み、ハチだけに蜜を与える」ために植物はどのような工夫をしていますか。それぞれ四十字以内で、具体的に二点説明しなさい。

問六 傍線部⑤「得られる」とありますが、次のうち傍線部の部分が正しい言葉つかいであるのはどれですか。すべて選んで、記号で答えなさい。

- ア 難しい漢字もきちんと覚えれるように、ノートに何回も練習した。
- イ 夏休みに文化祭の準備をするため、クラスの人に来れる日を確認した。
- ウ 練習したおかげで、みんなの前でも堂々としゃべれるようになった。
- エ 好き嫌いがなく、何でもおいしく食べれる方が幸せだと思う。
- オ 充実した学校生活を送れるように、何事にも一生懸命に取り組む。

問七 傍線部⑥「過去問とまったく同じ問題を出題する入学試験のようなものなのだ」とありますが、これはどのようなことをたとえていますか。わかりやすく答えなさい。

問八 傍線部⑦「自然の営みというのは、本当にすごいものである」とありますが、何が「すごい」のですか。その説明としてもっとも適切なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア それぞれの生き物が自分の都合で動いていながら、お互いが得をするような仕組みが自然とできあがってしまうこと。
- イ 動植物の中には人間に匹敵するほどの知性を持っているものもあり、その営みは人間の文化に引けを取らないこと。
- ウ 人間以外の生き物にも相手を思いやる気持ちがあるため、特にルールを作らなくても皆が快適に暮らせる環境が整うこと。
- エ 無意味に殺し合うこともある人間とは異なり、他の生き物は相手を傷付けることのない平和な関係を維持していること。
- オ 生き物とは自らの利益のために相手を退治しようとするものだが、その行為が逆に自分と相手の利益につながること。

問九 本文について述べたものとして適当でないものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア [1] 段落で使われていた共生関係という言葉が、[18] 段落では「」で括られ、その言葉をめぐって補足がなされている。
- イ [2] 段落で述べられていた植物の進化に伴い昆虫も進化するという話題は、[14] 段落などでも具体的に述べられている。
- ウ [4] 段落で提示されていた人間と植物の受け止め方の違いと同様に、[10] 段落では人間と植物との相違点が挙げられている。
- エ [6] 段落で触れられていたハチの頭の良さを受けて、[12] 段落ではそのハチの性質を利用した植物の工夫が紹介されている。
- オ [6] 段落で出てきたハチの行動について、[17] 段落では実はそれが植物の巧みな誘導によるものであることが分析されている。

三

次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① すべてを彼にユダねた。
- ② 人前で堂々と話すだけのドキョウがある。
- ③ ヨウリョウよく仕事を終える。
- ④ ヨビとして紙を二枚用意する。
- ⑤ ブンミヤクにそって解釈をする。

[問題はここまです。]

